

平成 26 年度 第 4 回 マザーレイクフォーラム運営委員会 議事録

| | | |
|------------------------|---|-------------------------------|
| 日時 | 平成 26 年 (2014 年) 9 月 18 日 (木) 18:15~20:00 | |
| 場所 | 滋賀県庁北新館 5-B 会議室 | |
| 出席者 (50 音順、 敬称略) | 石河 康久 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 |
| | 井手 慎司 | 滋賀県立大学環境科学部 |
| | 大山 明彦 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 |
| | 川崎 竹志 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 |
| | 小林 泉 | 滋賀県理事員 |
| | 北田 俊夫 | NPO 法人びわこ豊穰の郷 |
| | 小松 直樹 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 |
| | 中野 隆弘 | びわ湖エコアイデア倶楽部 |
| | 中村 満 | 湖南・甲賀環境協会/NPO びわ湖環境 |
| | 野田 晃弘 | NPO 法人蒲生野考現倶楽部/琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 |
| | 廣田 大輔 | 琵琶湖環境部琵琶湖政策課 |
| | 藤田 知丈 | 暮らシフト工房 |
| | 松沢 松治 | びわ湖の水と地域の環境を守る会 |
| | 三和 伸彦 | 滋賀県化学・環境行政職員同友会 |
| 村上 悟 | NPO 法人碧いびわ湖 | |
| 望月 孝幸 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 | |

※今回欠席（敬称略）：伊吹美賀子（湖南流域環境保全協議会）、川端隆弘（公益財団法人淡海環境保全財団）、佐藤祐一（琵琶湖環境科学研究センター）、辻博子（一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク）、平山奈央子（滋賀県立大学環境科学部）、堀彰男（滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会）、山口美知子（滋賀地方自治研究センター）、渡辺維子（元：公益社団法人滋賀県環境保全協会）、南部陽子、森俊彦（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）

今回の決定事項（要約）

- ・ 8/23 のびわコミ会議の振り返りと、各 WG より今後の活動について提案があった。
次回運営委員会までに各 WG で行うことは以下のとおり。
- ・ **【WG1(曼荼羅)】** 県内に多数存在する団体等とどうネットワークをつないでいくかをさらに検討する。
まずは県庁内の各部署とすでにつながっている団体等とのネットワークづくりを進める。
- ・ **【WG2(Web サイト)】** サイトの SEO 対策、MLF 登録団体や連携事業の紹介ページの新設について費用面も含め具体的に検討する。
- ・ **【WG3(地域連携)】** 守山での地域連携のモデル的な取り組みをさらに進める。
- ・ **【WG4(びわコミ会議)】** 来年度のびわコミ会議の開催日と会場を早急に決め、開催内容についても大筋の方向性を決定する。
- ・ 「びわ湖との約束 9 か条」について、びわコミ会議の結果としては原文そのままの形で公表し、それとは別に、今後さまざまな場面で標語的に活用できる、使いやすく洗練された言葉に整理しなおしたものを、佐藤氏・川本氏を中心に考案・決定する。
- ・ **【WG5(事務局)】** 財源を含めたフォーラムの安定運営にむけた方策の検討、運営委員会メンバーの見直し、WG 新設のルール化、「MLF 連携事業」の実績の蓄積と共有方法、各地域フォーラムとの連携強化のしくみづくりなどについて具体的に検討を進める。

1. びわコミ会議の成果と振り返りについて(WG4 びわコミ会議より)

(1) 成果と課題について

8月23日に開催したびわコミ会議の振り返りを行い、運営委員会委員等からのメールによる評価・反省や参加者の当日アンケート回答結果（別紙資料参照）などをもとに、成果や課題などについて共有した。

【成果（よい評価）】

- ・参加者数が昨年よりも増えた。（公称 224 名・104 団体）
→エクスカージョンの話もあったため昨年よりも日時や内容をかなり早めに決めて広報活動を開始した／チラシ印刷部数を増やし、淡海ネットワークセンターや碧いびわ湖の DM にも同封してもらった／facebook 等のソーシャルメディアを活用して発信した。
- ・子どもの参加が多かったのがよかった。びわっこ大使の子ども限定で真剣に話し合うテーブルもよかったし、半田こどもエコクラブの子どもたちが各テーブルに入ってくれたことで大人だけの場合とは違う丁寧な話し合いができた。
- ・他府県からの参加が多かったのもよかった。今までとはいい意味で違う雰囲気だった。普段とは違う視点からの話が聞けた。
- ・司会進行もわかりやすく軽快でよかった。第2部で予定にはなかった嘉田さんの司会参加があったが、結果的にそれも高評価につながった。
- ・全体的に、分かりやすかった・気づきを得られた・勉強になったといった意見が多く寄せられた。

【課題（悪い評価）】

- ・事務局、特に琵琶湖政策課の皆さんへの負担が大きすぎた。準備期間も含め、びわコミ会議にウエイトが偏りすぎていて、びわコミ会議の開催自体がマザーレイクフォーラムの目的のようになってしまっているのではないかな。
- ・たくさんの要素を1日に詰め込みすぎで、消化不良だった人も多かったのではないかな。イベントが盛況だったとしても、実際には必ずしも期待すべき効果につながっていないのではないかな。
- ・時間が短すぎた、びわ湖なうや、第2部の討論の内容が難しすぎてついていけなかった、という人もいた。
- ・第2部のテーブルレイアウトや人数配分がよくなかった。同じグループ内の声が聞こえにくかったり、逆に隣のグループの声が耳に入って議論に集中できなかつたとの声が多かった。
テーブルやイスのレイアウトをもっと工夫できたのではないかな。
- ・第2部で、ポストイットやホワイトボードを使いたいとの意見がワークショップ開始後に各テーブルから出て、対応しきれなかつたテーブルもあった。要望を事前に聴取しておくべきだった。
- ・「プレエクスカージョン」への評価がほとんど得られなかつた。

(2) 「びわ湖との約束9か条」について

当日各グループから出された9つの「びわ湖との約束」について、そのままでは分かりづらかったり使いにくかったりする部分を整理した案を川本氏が考えてくださった（別紙参照）。しかし、もとも

との各グループの思いが必ずしも反映されていないと思える部分もあり、約束の数も9か条から7か条に減っていることについて、どのように対処すべきか話し合った。

その結果、もともとの9か条は、あくまでびわコミ会議第2部の各テーブルから出された「キーセンテンス」としてそのまま残すと同時に、マザーレイクフォーラムや各登録団体などが今後さまざまな活動の場面で標語的に活用しやすいよう、必要に応じて語句・表現等を改変したものを佐藤氏・川本氏を中心に考案・決定していただき、それを「びわ湖との約束」として公表していくこととなった。

2. 各ワーキングからの今後の提案や新たな課題について

(1) WG1（曼荼羅）

- ・現在までの MLF 登録団体（74 団体）以外にも、びわ湖の保全に関わっておられる団体・事業者等はたくさんいるはずだが、なかなかそ野が広がっていかない。
- ・特に、湖北や湖西からの登録がほとんどない。
- ・まずはとっかかりとして、県庁内の各部署や出先機関がそれぞれの現場つながっている団体・事業者等がたくさんあるはずなので、それらを通じて MLF への参画を呼びかけていけるよう、県職員同士のネットワーク体制を強化できないか。早崎内湖、琵琶博環境学習センター、農政、林務、市町など。→曼荼羅 WG で動いてみる。
- ・呼びかけるにあたって、MLF 側でも、各団体・事業者等が参画するとどのようなメリットがあるかをきちんと整理して、より明確に「見える化」する必要がある。→これは事務局 WG で方策を検討する。

(2) WG2（Web サイト）

- ・今回、Facebook と連動させたことで、情報をより多くの人に伝えることはできた。ただ、Facebook は誰もが利用しているわけではないので、Web サイトとの使い分けをどうするかについて、もう少し詳細に検討しておく必要がある。
- ・現在、「マザーレイクフォーラム連携事業」について、Web 上では情報交換ページでの発信程度しかできておらず、これまでにどのような連携事業があり、その結果がどうだったのかについて、整理も発信もできていない。
- ・MLF 登録団体の情報発信について、現在は PDF の一覧表を掲載しているだけだが、「エコロシーが」のように各団体を紹介するページを独立して設けることで、団体の参加メリットを高めると同時に、MLF 側のサイトのアクセス数を増やす効果も期待できる。

→上記各項について、手間や費用との兼ね合いも含め、Web サイト WG で検討する。

(3) WG3（地域連携）

- ・守山でのほたるパークアンドライド事業をモデルに、関係主体に聞き取り調査を進めているところ。
- ・具体的な連携のしくみづくりについて、地域連携 WG でさらに取り組みを進めていく。

- ・今後、地域連携のモデルケースを具体化していくにあたり、会場費や講師謝礼などの費用が発生するようなことも想定される。

(4) WG4（びわコミ会議）

- ・来年のびわコミ会議の開催内容も今年とほぼ同じ方向性でいくのか、それとも方向性を変えるのか、意見が分かれる部分もあった。
- ・来年の実施時期については、今年同様 8 月下旬とする。ただし最終週だと 2 学期が始まっている学校もあるし、その前の週だと（今回のように）地蔵盆と重なる地域も多い。そのあたりも踏まえて日程は早急に決めてしまう必要がある。
- ・会場は、無料で使用できて使い勝手のよいコラボしがのままとするか、より大人数を収容できる他の施設を模索するか、毎年大津ばかりでの開催でよいのかも含めてさらに検討が必要。

→上記各項について、びわコミ会議 WG で早めに検討する。

(5) WG5（事務局）

- ・現状、MLF 運営委員会は、びわコミ会議開催のための委員会のようになっているが、本来の目的を達成するために、もっとほかの取り組みも並行してやっていくべき。
- ・「淡海の川づくりフォーラム」（県流域治水政策室が担当）など、県内の他の類似の事業や取り組みと「びわコミ会議」との連携や役割分担を考えてはどうか。
- ・運営委員会に参加する運営委員メンバーが固定化してきている。「運営委員」と「専門委員」の区別もあいまい。運営委員メンバーを見なおしてもよいのでは。たとえば、各湖南や湖東の地域フォーラム関係者、琵琶湖政策課以外の関係部局の担当者など。
- ・新たな WG の設置について、ルール化が必要。新たな WG テーマを公募し、その主担当者を運営委員メンバーに追加していくのはどうか。
- ・湖南・湖東等の各地域フォーラムと全体 MLF との連携や情報共有が不十分である。湖南フォーラムでは、湖東フォーラムを訪問し、地域フォーラム同士の交流と情報共有を進めようとする動きもある。
- ・今年度は嘉田前知事の肝いりで追加予算がついたが、来年度以降も安定的に運営していくには、基金を立ち上げて寄付を募る等の収入基盤づくりが急務。→淡海環境保全財団を寄付金の受け皿にできないか、県のほうで再確認する。

→上記各項について、事務局 WG を中心に検討する。

3. その他

- ・次回運営委員会は、11 月中旬以降に開催する。
- ・それまでに各 WG でそれぞれ検討を進め、次回運営委員会にて報告する。

— 以上 —